



前期講座

# 西宮文学案内

古くから文学作品などに登場することの多かった西宮。  
関わりある作家や作品をとり上げその魅力を探っていきます。



第1回

## 小松左京作品と 阪神間文化

令和5年7月22日(土) 15:00~16:30

西宮市立勤労会館ホール

(松原町2番37号)

JR「西宮駅」南西徒歩7分 阪神「西宮駅」東徒歩8分

大阪市京町堀で生まれ、夙川、今津で少年期を過ごし、三高・京大卒業後も甲東園、尼崎、最後は箕面と阪神間を離れなかった小松左京にとって、阪神間文化は大きな意味を持っていたのではないのでしょうか。作品から紐解きます。

講師: 乙部順子 おとべじゅんこ

(元小松左京マネージャー・株式会社イオ代表取締役)

1977年より小松左京のアシスタント・秘書・マネージャーを務め、1992年より小松左京が映画「さよならジュピター」制作のために設立した会社、株式会社イオを継承。「小松左京マガジン」や「小松左京全集」の発行など、小松左京作品を後世に伝えるための活動をしてきた。これからはSFミュージアム設立をめざしている。



第2回

## 関東大震災と 神戸・阪神間の文学

令和5年8月24日(木) 15:00~16:30

西宮市立勤労会館ホール

(松原町2番37号)

JR「西宮駅」南西徒歩7分 阪神「西宮駅」東徒歩8分

今から百年前の1923年におこった関東大震災は、谷崎潤一郎を筆頭に作家、画家、音楽家など、被災した様々な文化人を関西に送り込み、関東から多くの新しい文化を流入させました。彼等の関西での活動を追います。

講師: 箕野聡子 みのとしこ

(神戸海星女子学院大学 教授・甲南大学 非常勤講師)

神戸女学院中高部・大学卒業。関西学院大学大学院後期博士課程単位取得。関西文化に育まれた文学を研究テーマとしている。著書は『横光利一と関西文化圏』(共著)、『新聞から見る1923年の神戸』(共著)など。



第3回

## 西宮に住んだ劇作家、 日本の知性とよばれた 山崎正和

令和5年9月26日(火) 15:00~16:30

西宮市立大学交流センター

大講義室 (北口町1-2 アクタ西宮東館6階)

現代の知性、山崎正和に接した人は、理路整然、論理的に話す知識人というイメージを持ちますが、実は「発想」の達人だったのではないのでしょうか。座談の名手だったところにもそれは遺憾なく発揮されています。サントリー時代に親交を深めた佐藤氏と文化プロデューサー河内氏が山崎正和を語ります。

佐藤友美子

さとうゆみこ

(学校法人追手門学院 理事)

サントリー不易流行研究所部長、同文化財団上席研究フェロー、追手門学院大学地域創造学部教授、同成熟社会研究所所長を経て、現職。著書に『つながりのコミュニティ』(共著)、『成熟し、人はますます若くなる』など。



河内厚郎

かわうちあつろう

(文化プロデューサー)

1952年西宮市生まれ。演劇評論家。元「関西文学」編集長。兵庫県立芸術文化センター特別参与。阪急文化財団理事。芦屋市民センター運営受託者・宝塚市大使。はびきの市民大学学長。西宮市文化振興財団評議員。著書に『わたしの風姿花伝』『淀川ものがたり』



対談

単発受講可

※但し、抽選となる場合は連続受講希望の方を優先します。

◆定員: 第1回・第2回 200名 第3回 70名

◆受講料: 各回500円

◆お申込み: ハガキ、FAX、ホームページ申込フォームの何れかにて

①受講希望日 ②郵便番号 ③住所 ④名前

⑤年齢 ⑥連絡先電話

を記入の上お申し込みください。

◆宛先: 〒662-0918 西宮市六湛寺町10番11号

(公財)西宮市文化振興財団「西宮文学案内」係

FAX. 0798-33-3455 ホームページ<https://nishi-bunka.or.jp>

※複数でのお申込み(3名まで可)は、全員について左記①~⑥をご記入ください。申込フォームはお一人ごとに入力してください。

※定員を超えた場合は抽選で受講者を決定します。当選結果は6月下旬に郵送します。

締切6月20日(火)必着 ※定員に満たない場合は締切後も受け付けます。

